

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	わらべうた「どちらにしようかな」の静岡県内の地域性の調査				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	山本 学
	研究分担者	所属・職名	沼津市保育士	氏名	中島 ゆづき
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	山本 学

講演題目	わらべうた「どちらにしようかな」の静岡県内の地域性の調査
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>目的</p> <p>わらべうたは小林佐知子（2017）のように口承的に伝わるため、地域性があることや、十時やよい（2021）ように歌う子どもたちが変えていく様子が知られている。わらべうたは、保育によく用いられ、その教育的な意義を、今由佳里（2021）では子どもにとって楽しく、興味を引く活動であり、特に集団活動時の導入として効果的であることとし、保育の音楽表現に関する著書（谷田貝（2013）、石井玲子（2018）ほか）でもほぼ必ず取り上げられている。</p> <p>わらべうた「どちらにしようかな」に関しては、森薫（2013）のように、そのリズムとメロディの多様性について明らかにしているものがあるが、ある特定の地域で、その地域性を調査されたものは見当たらない。また、井上博子ほか（2019）では、わらべうたの変容について「ごんべさんのあかちゃん」を原曲のリパブリック讃歌からの変容と日本における受容を資料研究で明らかにしているが、時系列的な変化に注目し、地域性に注目されたものではない。</p> <p>そこで、本研究の目的を、静岡県内でわらべうた「どちらにしようかな」がどのように分布し、また変化、地域性が表れているのかを調査し、考察を行うこととする。</p> <p>方法</p> <p>時期：2023年8月～2024年2月、対象：静岡県内の保育園 636園（301園、回収率 47.3%）、内容：わらべうた「どちらにしようかな」の歌詞等</p> <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「それは神様の言う通り」と「決めたかな」は富士市を中心として使われていた。 ・「隣のバカ娘」は沼津市を中心として使われていた。 ・赤豆、白豆、黒豆など「豆」が出てくるのは、県内広くみられるが西部にはあまり見られない。 ・「柿の種」は伊豆に主に表れている。 ・「ギタンパッコン」は東部、伊豆にわたって表れている。 ・「お皿が割れる」のは磐田市や袋井市を中心に西部に表れている。 ・「ネズミ」や「歯ブラシ」は藤枝市を中心に表れている。 ・地域、例えば「沼津市」を例にとっても年齢による差はあまり表れない。 ・「天の」神様が全体の73%、神様が24%、「それは」がつくのが全体の3%程度となった。